

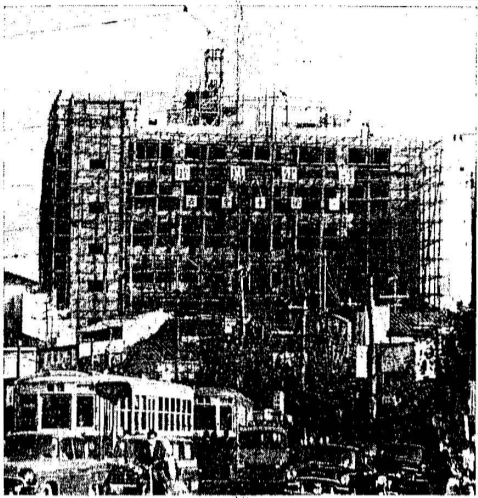
大学院竣工に近づく

定礎式終り最終工事に 完成は来春三月の予定

大学院建設附属病棟増築工事は、時に着工されて、これが完成の晩
 間建設によって起工されたが、には昭和36年3月には、地下1階
 その後建設は順調に進み当初の予
 定より、地下1階、地上8階の軀
 体工事が完了、上棟式および定礎
 式が12月12日、工事中の新館7階
 において、理事者御教授連、校友
 会および父兄会その他建設関係者
 を集めて盛大に挙行された。

現在すでに仕上げ工事にどりか
 かっているが、窓枠サッシュのは
 め込みはほとんど完了、左官工事
 大工造作、給排水工事、および電
 気工事が昼夜兼行で行なわれ、全
 工程の70%がすでに進捗し、あと
 仕上げ工事だけをのこすのみとな
 っており、来春4月10日完成を目ざし
 現在、第三期工事にかかっている
 。

なお、本館と基礎学舎の建
 設は12月12日の本学法人理事会で
 施行者が本決りとなり、契約と同



大学院 完成間近

有馬支部誕生す
 兵庫県校友会神戸分会では八月
 一日開かれた常任理事会の席上
 において兵庫県から分離して有馬支
 部が新しく誕生する事を決議し全
 員一致で可決した。
 なお支部長には警入善晴氏が選
 ばれた。

去年今年

佐本 洛木

大学院棟上を待つ去年今年
 大学院棟上を胸に屠蘇を酌む
 菊の香の老師の声を囁らす勿れ
 いとなみの煙一すち山眠る
 光りつつもの架とぶ小春かな

来年は但馬地区に決定

盛会極めた交歓旅行会

本年度交歓旅行会は八月八、九日の瀬米の鶴別として二十万内を
 日(土、日)の両日宝塚市におい
 たり、その前途を祝した。
 なお、前上級旅行会の次期予定
 て九十二名が出席、尼崎分会の
 せんで鳥家旅館で盛大に行われ
 地は従来交歓旅行会が指定して
 がこれを改め県校友会が指定す
 当日本学からは小野、柳生、梅
 本、坂、中村(後)、白田教授ら
 出席、奥野会長より梅本、坂副教

会費年額三百円に決る 神戸分会定時総会開く

神戸分会定時総会
 神戸分会では六月二十七日会館
 において定時総会を開催し前役員
 に感謝状および記念品を贈呈しそ
 の功をねぎらった。
 また同分会の名簿作製のため各
 支部長より会費名簿が提出され
 た。なお会費は年額三〇〇円で各
 支部長が会費から徴集することに
 決定、さらに十五号台風の見舞金
 も各支部長が取りまとめ県校友会
 に納入することに決定、現在では
 その大半が完了した。
 支部長は年一回開催すること
 に決めたが現在の神戸分会の支
 部は十一、会員は二九七名である。
 各支部会費数は次の通り。
 東灘区(石橋支部長) 三四名
 灘区(松本支部長) 三五名
 灘合区(森岡支部長) 二九名
 生田区(内島支部長) 五一名
 兵庫区(太田支部長) 五一名
 長田区(佐本支部長) 四五名
 須磨区(河合支部長) 一三名
 須磨(清水支部長) 四名
 垂水区(堀家支部長) 二名
 明石(藤支部長) 一四名
 有馬(警入支部長) 九名

◎今後校友会活動の際は所属支
 部長は必ず分会庶務として御報告
 下さい。

県下被災会員は八名 いづれも床上浸水

十五号台風による県下各地の被
 害は予想以上に大きかったが、県
 下校友会員の被害状況は次の通
 り。
 沢田 明(北但) 二十五回卒
 西岡 耕二(北但) 三回卒
 大江 宏二(北但) 三十四回卒
 金子 太郎(北但) 二十四回卒
 安福 八郎(南但) 二十七回卒
 以上の方々はいづれも床上浸水で
 す。
 このため校友会救済対策本部で
 は床上浸水被害者に八千円ずつの
 見舞金を送りました。

大浦専務租税問題を説明 本県校友会常任理事会で

十月十七日(土)七時三十分会
 ら開かれた常任理事会では台風十
 五号による被災会員の見舞金に関
 する件、新卒業生歓迎会開催に関
 する件、前理事者に感謝状および
 記念品贈呈に関する件などを協議
 した。
 また十一月七日(土)七時三十分
 分から開かれた新卒業生歓迎会準
 備委員会では十一月六日(日)正
 午前十時から会費三百円で行こ
 とを決定した。
 これによって十一月十四日(土)
 七時三十分から常任理事会を再
 開する。

歳末雑感

治療室では、足がよく冷える。
 窓の外でシングルベルが聞え始め
 たら急に歳末の感じが深くなった。
 年々歳々、年は明けは暮れるの
 だが、一向に嬉しい様な事もな
 い。
 この間は校友会新入会員の歓迎
 会があった。若々しい人達の元氣
 にあふれた言動には何となく微笑
 ましいものがある。
 先陣に立つは易く後陣に越され
 ざるは難しと言ふ古語があるが、
 若い人達の活躍には、いつでも
 心ひきしめられる。

『万代の礎三十五年』



奥野 半蔵

新年おめでとうごさいます。
 大南大学院第一期工事も精々
 と進み四月完成を目ざして第三
 期(四億四)工事も近々「くわ
 入れ」が行われる事となってい
 ます。
 我が母校がだんだんと大きく
 完成されて行く姿はうれし
 りです。今年には母校万代の礎の
 年になると思ひます。
 このため大学院建設費金加入
 もれの会費がおられましたら番
 べて御加入願ひ我々の結束を充
 実にして本学の主体性を維持し政
 治的進出により校友共済共済を
 計りたいと思ひます。
 正月早々私の夢と希望を披れ
 きすると兵庫校友会会費家族を
 ユンをやってみたい。会員間は
 知りあひであつても家族の顔の
 変質的なものでなしに理論的で
 知らない人が多きが本学の親和
 は家族相互の面識から始まるの
 であり、しかも夫人連には現今
 の歯科界の動きが分つていな
 い。28%の成行きも社会保険
 会願ひしている。

大阪歯科大学 兵庫県校友会会報

第11号

編集兼発行人 村井俊郎

新年 謹賀

大阪歯科大学校友会兵庫県支部
 役員一同

老若交歓の宴はつきず

吉崎中議員 からも出席 新卒業生歓迎会は盛況

大歯大校友会兵庫県支部恒例の新卒業生歓迎会は秋を思わせる快晴の十二月六日(日)午前十時から兵庫会館大ホールで開催されたが、この日吉崎中参議院議員ははるばる東京よりはせ参じ、大阪からは吉崎学長以下水野、白敷、柳生、中村教授らが出席、近年にない盛況を呈した。

会長 新卒生を激励

大歯大兵庫県校友会の例年の行点數二五%の増収分を校友が拠出する中、老若一体となり、兄弟姉妹として心おきな語りあひあると述べ、さらに租税特別措置法案の二八%についてはこれが存続には私の目の黒いうちは絶対に六月六日(日)午前十時から会館大ホールで開催された。

いつも能弁善言をもつてなる磯島理事の司会にはじまり、名出副会長の開会の辞について、奥野会長は、今後いかなる苦勞があろうと先聲を信賴してどうか、自信をもつて歩み続ける機にと、新卒業生に激励の言葉をおくれ、この日の来賓として出席した吉崎学長からは、私の念願としていた大歯大は、精々工事も進んでいるが、予算のオーバーは如何ともなし難い。これを拠出出来るのは校友以外にはないので一致団結して協力願いたい」と述べはるる東京からこの日のために帰郷した竹中参議院議員からは、さきに学長から話があったが大学院の建設は新ビルの対照に笑いがちらほら、ついで笑福亭福郎の落語はついつつと



あいさつをする吉崎学長

で笑福亭福郎の落語はついつつと、ついでに松鶴家光晴、浮世亭夢舟の名コンビに、笑い声があちこちから聞え、最後に満場の拍手に送られて、二人がステージから降りると会場ははははと思、ここで五分間の休憩して午後十時に散会した。

顔があつて、身長も竹中議員のかんばいで全員が起立、新卒業の前途を祝した。会場のあちこちで煙草を吸つた御老体、快気箱をあげる若者などなごやかな談笑のうちに意識深い一日を終つた。

二五会西宮で開く

二十五回生の兵庫県校友会が三回(ウタ子会)と称してから二年目にあたるのでこれを記念して十二月十二日 西宮市 葉竹で盛大な忘年会を行った。出席者は河崎八七生、村井俊郎、山村幸、河崎弘、宮井鍾三朗、寺内昇、井上時雄、寺西徹一、浜田幸喜の九名であつたが当日鹿島弘、宮井鍾三朗両君の学位獲得を祝して記念品が送られるなど今後の結束を約して午後十時に散会した。

二十九名が新入会

昭和三十四年度大歯大卒業生のうち本県の校友は二十九名で男十五名、女子四名である。その氏名、住所は次の通り

足立 均	神戸市長田区蓮宮二丁目
岩城 公郎	西宮市甲子園口北町一〇〇 西宮 5100
池内 満	相生市新町 相生 573
石原 洋子	小野市池田町 小野 30
尾上 恵一	尼崎市森二八五
野ノ海 寿八郎	摂津郡林田町松山 林田 7951
香山 守	神戸市兵庫区山田町東下 山田 3
楠本 和子	明石市田町六七五
酒井 環	神戸市東灘区魚崎町横屋 五九
下井田 久仁夫	尼崎市森二三八 大阪 3915
杉本 大蔵	尼崎市瀬古植八 大阪 2420
橋 精一郎	西宮市南郷町一五 西宮 0791
多和田 隆雄	尼崎市水堂加茂十八 大阪 1637
武田 隆雄	出石郡出石町堀西 出石 64
中川 智英子	豊原市南宮町一五三 豊原 6144
中村 敬	神戸市灘区上筒井通六ノ二二三
西海 啓之	神戸市長田区二葉町二丁目二三 7
浜本 宏	宝塚市小林地方清風荘内 6464
坂 沈市	尼崎市武庫之荘二ノ一六三 大阪 7331
英 恵美子	神戸市長田区五番町八丁目一七七ノ大同歯科
福岡 優	小野市垂井町 小野 269
豊後 謙	三田市下野三三四
船津 保男	神戸市兵庫区佐比江町一〇九
三原 照雄	神戸市灘区篠原北町三丁目七
三坂 明美	神戸市生田区山本通五ノ七一 ④ 8337
村瀬 進	神戸市灘区岸地通二丁目
森 昇 正幸	三田市上野野二〇七ノ一
森本 宗弘	尼崎市森二九八

主論文 齒槽膿瘍患者の唾液のアルカリ性に関する研究 副論文 七編 大歯卒、昭和三十四年十月八日 通過、京都大学 村上昌久(30回)

主論文 マウスのサルファ剤に対する耐薬性に関する研究、特に耐薬性を知法に就いて 副論文 十編 大歯卒、昭和三十四年十一月十一日通過、京都大学 溝井三代次(18回)

主論文 顎骨々癒合が永久歯牙身に及ぼす影響についての実験的研究 副論文 六編 大歯卒、昭和三十四年十月二十九日通過、京都大学 厚味庄平(27回)

主論文 スルファミン剤の唾液中への排泄について 副論文 六編 大歯卒、昭和三十四年五月二十八日通過、京都大学 滝口宗雄(26回)

主論文 細胞内顆粒沈着に対するホリビニール・ピロリドンの阻止及び排出作用に関する実験的研究 副論文 七編 大歯卒、昭和三十四年五月六日 通過、神戸医科大学 鹿島 弘(25回)

主論文 歯槽内化灰物形成に関する実験病理学的研究特に歯槽膿瘍のこれに及ぼす影響について 副論文 八編 大歯卒、昭和三十四年十一月二十六日通過、京都大学

主論文 歯槽内化灰物形成に関する実験、病理組織学的研究特に貧血時に於ける化灰物形成について 副論文 八編 大歯卒、昭和三十四年十月十五日 通過、京都大学 藤本 豊久(28回)

主論文 消化管出血性血球に関する研究補遺 副論文 七編 大歯卒、昭和三十四年十月二十一日 通過、京都大学 藤本 豊久(28回)

主論文 齒槽膿瘍患者の唾液のアルカリ性に関する研究 副論文 七編 大歯卒、昭和三十四年十月八日 通過、京都大学 村上昌久(30回)

主論文 マウスのサルファ剤に対する耐薬性に関する研究、特に耐薬性を知法に就いて 副論文 十編 大歯卒、昭和三十四年十一月十一日通過、京都大学 溝井三代次(18回)

主論文 顎骨々癒合が永久歯牙身に及ぼす影響についての実験的研究 副論文 六編 大歯卒、昭和三十四年十月二十九日通過、京都大学 厚味庄平(27回)

主論文 スルファミン剤の唾液中への排泄について 副論文 六編 大歯卒、昭和三十四年五月二十八日通過、京都大学 滝口宗雄(26回)

主論文 細胞内顆粒沈着に対するホリビニール・ピロリドンの阻止及び排出作用に関する実験的研究 副論文 七編 大歯卒、昭和三十四年五月六日 通過、神戸医科大学 鹿島 弘(25回)

主論文 歯槽内化灰物形成に関する実験病理学的研究特に歯槽膿瘍のこれに及ぼす影響について 副論文 八編 大歯卒、昭和三十四年十一月二十六日通過、京都大学

主論文 歯槽内化灰物形成に関する実験、病理組織学的研究特に貧血時に於ける化灰物形成について 副論文 八編 大歯卒、昭和三十四年十月十五日 通過、京都大学 藤本 豊久(28回)

主論文 消化管出血性血球に関する研究補遺 副論文 七編 大歯卒、昭和三十四年十月二十一日 通過、京都大学 藤本 豊久(28回)

春 頌

大阪歯科大学教職員一同



繪・玉川 義男

学位獲得おめでとう

奥野半藏(6回) 主論文 人歯歯頸線の解剖学的研究 副論文 八編 大歯卒、昭和三十四年十月七日 通過、京都大学 宮井鍾三朗(26回) 主論文 Zementikel に関する病理学的研究、特に顎骨癒合がその初期像におよぼす影響について 副論文 十一編 大歯卒、昭和三十四年九月二十三日通過、京都大学

山田 旺(大1回) 主論文 Pentachloroethyl-natrium 塩の生理作用に関する研究 副論文 八編 大歯卒、昭和三十四年八月三十一日通過 藤田恭吾(32回) 主論文 アルカドール投用に於けるカッパアザン線及その他主要臓器の組織学並びに組織化学的研究 副論文 八編 大歯卒、昭和三十四年六月六日 通過、京都大学

達谷喜信(23回) 主論文 歯槽内化灰物形成に関する実験、病理組織学的研究特に貧血時に於ける化灰物形成について 副論文 八編 大歯卒、昭和三十四年十月十五日 通過、京都大学 藤本 豊久(28回) 主論文 消化管出血性血球に関する研究補遺 副論文 七編 大歯卒、昭和三十四年十月二十一日 通過、京都大学 藤本 豊久(28回)

橋口 優氏(南信) 十七回 卒は十二月四日交通事故のため逝去されました。 島原孝雄氏(東灘) 十五回 卒は九月十日薬石の効なく永眠されました。 辻野信夫氏(伊丹) 二十九回 卒は十月二十九日急逝されました。 以上ついでお悔み申し上げます。